

# あつまれつるがやの町

## 宮城県仙台第三高等学校 普通科40班

### 鶴ケ谷の歴史

1963年... 仙台三高開校  
1970年代前半... 鶴ケ谷団地開発開始  
1971年... 鶴谷小学校開校・ショッピングセンターopen  
1973年... 鶴谷東小学校開校  
1974年... トーコー（デパート）open  
1976年... 鶴ケ谷団地入居開始

鶴ケ谷団地は、急激な人口増加を受け入れるための場所として東北最大のモデル都市に開発された。当時は抽選で家が販売されるほど人気が高く、東北有数の団地だった。

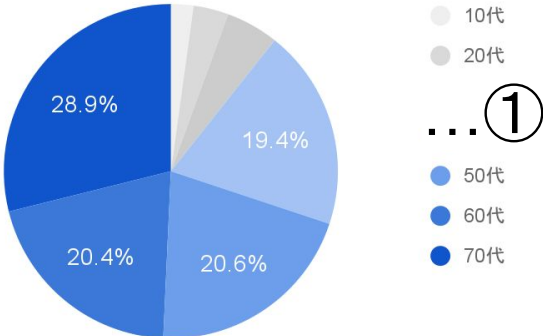
### 背景と目的

現代の日本において、商店街は衰退の一途を辿っている。  
活動の起点である鶴ケ谷商店街は、鶴ケ谷が開発されたてからの昭和50年代頃から平成初期には栄えていたが、現在は、生協やツルハなどとの競合や鶴ケ谷地域内の高齢化によって、商店街の訪問者は減少している。  
そこで地元の鶴ケ谷商店街に貢献したいと考え、地域の人の商店街に対する意見を住民にアンケートで調査することにした。

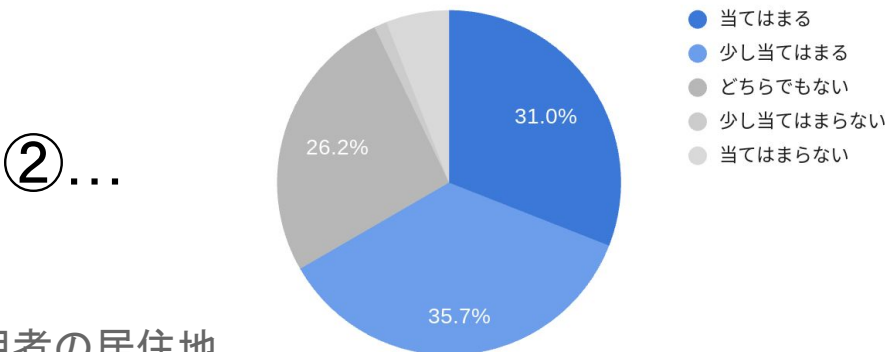
### 3. アンケート結果・考察

R67月16、28日に鶴ケ谷商店街で実施。  
アンケート用紙とQRコードによる回答計91個

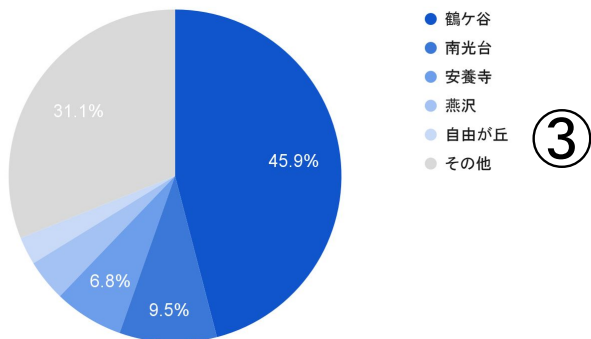
#### 利用者の年齢



#### 安いと感じるか



#### 利用者の居住地



### 3. <グラフからの読み取りとり>

①のグラフから、鶴ケ谷商店街を利用している方の約9割が40代以上であり、30代以下からは、商店街をよく知らないという声もあった。

鶴ケ谷団地に子供や大人が多く住む一方で、商店街の利用者は **高齢化**が進んでいる

②のグラフから、利用者の65%が商店街を安いと感じている。また、同アンケートで「なぜ鶴ケ谷商店街を利用するのか」と聞いたところ、ほとんどの人が「近いから」と回答している。

利用者にとって「**安さ**」「**近さ**」が魅力になっている

③のグラフから、利用者の約半分以上を鶴ケ谷の地域住民が占めており、商店街に近い地域からの来客数が多いと分かる。よって商店街は **地域住民のアクセスの良い場所** である。

このことから...  
商店街の魅力を **商店街マップ** 形式で載せ、それを広めることで商店街利用の効率化と来客者数の増加に繋がると仮説した。

### マップ

### 4. 結論

京都商店街創生センターへの訪問でもらったアドバイス

- 店舗かつ店舗間の関係をデータ化・分析
- 各商業施設が集まり話し合う場を設ける
- 商店街情報の一元化・発信強化



- すべきことは、
- 集めた情報をまとめ、マップを作成
  - マップを町内会の班長会議で紹介し拡散を依頼
  - マップ拡散後、商店街利用状況の調査

### 参考文献

中小企業庁委託事業 令和3年度 商店街実態調査報告書